

イギリス商館長日記（リチャード・コックス）

リチャード・コックスは、江戸時代の初めに、九州の平戸にあるイギリス商館の館長でした。彼の日記では、日本での彼の職務を詳しく説明しており、鎌倉大仏について説明しています。彼は、大仏が日本滞在中に見た中で最も印象的なものだったと述べています。2つの山の間谷に位置するこの像は、コックスが見た480年前に建てられました。コックスは、身長が20ヤード以上、腕と膝の間が12ヤード以上あると推定しました。彼は、「裁縫師のように」足を折り畳んで座っていると説明しています。その頭は、30人の人が中に立つことができる古代ローズの巨像よりも大きかったと言われています。コックスは、大仏の建設に使用された金属を運ぶのに3000馬が必要になると推定し、それは本当に驚くべき光景であると述べました。